



検討資料

2017.8.18 読売朝刊社会面

私たちの主張

「道路は廃止」

「公園整備については生態系を壊す可能性がある」

「相生山のありのままの姿を後世に残す工夫こそ必要」

相生山緑地の工事現場。道路建設がストップして立ち入り禁止となっている（17日、名古屋市天白区で）

相生山緑地を巡る経緯

1957年 9月	道路(市道弥富相生山線)を都市計画決定
2004年 3月	道路の工事を開始
10年 1月	河村たかし市長が工事を凍結
14年12月	河村市長が公園整備の方針を表明
15年 3月	公園整備の検討会議を設置
17年度中	市民アンケートを実施して計画案を作成
18年度中	住民から意見を聞く説明会などを開催予定

まず計画

「生態系を壊す可能性がある」として、「道路を廃止する手続を早く始めたい」と強調する。建設済みの道路を公園に転用してキャンプ場などにする計画だが、整備費は未定という。

一連の市の対応に振り回された地元は複雑だ。道路建設を求める住民団体の原宏さん(76)は「建設済みの道路部分を活用し、消防車や救急車が通れるだけ早く道路廃止に賛成する市民グループの古川善嗣さん(66)は、公園整備については生

る名古屋の新名所にする」として、「道路を廃止する手続を早く始めたい」と強調する。建設済みの道路を公園に転用してキャンプ場などにする計画だが、整備費は未定という。

一方、市が計画を凍結する理由の一つとしたヒメボタルは減少傾向にある。名古屋大工学部の研究士で1級ビオトープ計画士の長谷川明子さん(52)は道路のトンネル上部で06年から10年間、ヒメボタルの生息状況を調べた。09年まで生息を確認できなかったが、10年に2匹、12年に26匹、14年には188匹にまで増えた。ところが15年は

一転、92匹と半減。長谷川さんは「事業のストップで市が緑地の木の手入れを中断しているためではないか。結論を早く必要がある」と指摘する。

- ・ほんの一部の人工植栽地でのデータが、相生山緑地全体の整備計画への問題提起になり得るのか。データも短期的で不十分。より広域の調査結果では「横ばい」。
- ・人間が「手入れ」をしなかったら、自然が減びるなどと考えるのは、人のおごり。
- ・自然はヒトの生存の命運も掌中にしつつ、超然と存在。遷移の中で、ある種が減びたり、繁栄したりは普遍的にありうることで、人がどうこうできるものではない。
- ・人為的な生態系への改変、その動向にこそ注意を払う必要がある。